

二四八三番

しきたへの衣ころも手て離はなれて 玉たま藻もなす なびきか寝ぬ
らむ 我わを待まちかてに

二四八四番

君きみ来こずは 形かた見みにせむと 我わが二ふた人たり 植うゑし松まつの
木き 君きみを待まち出いでむ

二四八五番

袖そで振ふらば 見みつべき限かぎり 我われはあれど その松まつが
枝えに 隠かくらひにけり

二四八六番

千沼ちぬの海うみの 浜はま辺への小こ松まつ 根ね深ふかめて 我あれ恋こひ渡わたる
人ひとの児こ故ゆゑに